

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年11月12日発行 No.87

『ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきりしておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。』

(マルコ 12:42 ~44)

<ようこそ KIU へ!! トライやるウィークで向洋中学の2年生が新しい自分を大発見!! >

先週、チャペルは澁漑とした笑顔が並びました。同じ六甲アイランドに位置する向洋中学2年生の4名がトライやるウィーク（職場体験）として、KIUを訪れてくれたのです!! チャペルでは掃除から式文作成、また大学生でも緊張する礼拝奉仕（サーバー）に初挑戦!! 最初は緊張の表情だった皆さんですが、新しい働きを経験する度に笑顔が増え、内容の濃い充実した一週間を過ごす事ができました!! よく聞くと、お兄さんがKIUに通っている人もいて、意外な繋がりにびっくり!! これからも様々な交流を深めて行きたいですね!! お疲れ様でした!!



テキパキと、しかし心を込めて掃除



日報の折り込み作業中



礼拝前の鐘を鳴らして…



超緊張の聖書朗読!! 何度も練習



ロウソクも上手に消せました



聖書の映画も鑑賞しました

<こちらもお小さなお客様!! 聖ニコラス天使園のお友達を迎えてチャペルで一緒に礼拝!! >

少し前になりますが、一番近い聖公会系の児童福祉施設である聖ニコラス天使園から小さなお友達がチャペルに来てくれました!! いつもより大きな礼拝堂やパイプオルガンの音にびっくりしているお友達もいましたが、元気な声で聖歌を歌い、一緒にお祈りを奉げる事ができました。深まる秋の中、小さな魂にも注がれている主の恵みと大きな愛を感じました!! また、このような小さな出会いや



体験が、一人ひとりの成長の力となるよう、お祈りしています。 初めてのチャペルにドキドキ

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

11月5日(月) テーマ:「縦と横から見えるもの」

野間 光顕(チャプレン)

中島みゆきのヒット曲に「糸」がある。「縦の糸はあなた 横の糸は私 逢うべき糸に出逢える事を 人は『仕合わせ』と呼びます…」というフレーズがあるが、私たちが日頃から使う地図や数学の座標軸も、縦と横の場所を定める事で位置を確定させている。この縦と横の関係を最もシンプルに表すと見えてくるもの、それがチャペル中央に掲げられている「十字架」だ。今週の聖書日課にも記されているイエスの示した2大命題、2つの「愛しなさい」は、様々な問題が山積し、混沌としたこの時代・社会の中であっても、自分の立つべき位置を指し示しているように思う。イエスご自身が命を懸けて示された全世界への「愛」を覚えつつ歩みたい。

11月6日(火) ※この日は入試のため礼拝は行われませんでした。

11月7日(水) テーマ:「リフォームのあれこれ」

下田 繁則(経済学部長)

最近自宅をリフォームした。壁紙の張替えやキッチン・エアコンの交換を行ったが、その工事に取り掛かる前に、2~3の業者を通して相見積もりを行うようにしている。それにより思わぬ割引が生まれる事があり、また業者の姿勢や注目点を発見できる。何より大切だなと思ったのがリフォームを通して「生活の見直し」を行えた事だ。私も含め現代人のライフスタイルは急速に変化している。「アマゾン効果」なる言葉が飛び交うように、ネット注文が増えて手軽に安く物が購入できる反面、物価が上がりやすく、これが深刻な不況を長引かせる要因ともなっている。「リフォーム=Re-form」には「改革する」「改心する」等の原意がある。目の前の値札に踊らされるのではなく、本当に大切なものを優先できるよう自分の心を見直したい。

11月8日(木) テーマ:「この5年間を振り返って」

大谷 啓尊(リハビリテーション学部)

5年前、私はこのKIUで教員としての働きを始めた。5年目を迎えても授業準備等で試行錯誤の連続だが、特に注力するのは、学生に向けて分かり易い授業を心掛ける事だ。この実践はなかなか難しい。理解を深めるために市販のものではなく時間をかけてオリジナル教科書を作成したが、様々な事情からお蔵入りとなってしまった。しかし、試行錯誤を重ねつつ、自ら考え、手を動かした事が自分の成長に繋がり、今ではある程度先を予測したり、その場で必要な取捨選択ができるようになってきている。現在は、比較的安定期を迎えてはいるが、以前のようにチャレンジをしなくなった自分がある。このままでは次の成長が与えられないのではないか…? そんな危機感を覚え、手を動かして次の課題に挑戦している。無駄は無駄で終わらず必ず将来に生きてくる。学生の皆さんも、失敗を恐れず様々な事にチャレンジして欲しい。

11月9日(金) テーマ:「ドラえもん」の救世主」

野間 光顕(チャプレン)

先日帰宅すると、息子が「ドラえもん」を観ていた。私も子供の頃大好きだったので少しの間一緒に観ていたが、各キャラクターの設定や物語の展開、特にせっかく出してもらったひみつ道具をのび太が調子に乗って使い過ぎ、結局失敗する…というオチまで変わっていない所に何とも言えない感慨深さを覚えた。実はこの「ドラえもん」、今から45年前の初放映時には全く視聴率が取れず、半年も経たずに打ち切りとなってしまった。失望した原作者の前で頭を抱えるプロデューサーを救ったのは、高畑勲氏だった。高畑氏は「ドラえもん」を通して届けられるメッセージ、ひみつ道具には未来への希望と夢、失敗から現実の厳しさとユーモア、何よりそんな自分の傍にいつも支えてくれる存在がある事を説き、再放送から成功への道をつける。

このメッセージは「一匹の迷い出た羊」に示されるキリスト教のメインテーマとも重なる。この時、一人ひとりの傍らに立たれる主の存在を覚えつつ、共に歩みたい。(文責：野間 光顕)